

事項	ぶどう「ノースレッド」の1回目摘心時の副梢の取り扱い方		
ねらい	「ノースレッド」の慣行栽培では、1回目の新梢摘心時に副梢は上位から2本残し下位を摘除しているが、副梢を上位1本残し下位を摘除した場合を検討した結果、熟期は遅れるものの、収量・品質とも大きな差がなく、2回目以降の摘心作業の時間短縮となったので参考に供する。		
指導 参考 考 内 容	<p>1 副梢1本区では、2回目以降の摘心作業・誘引作業の省力化が図られ、副梢2本区に対して、摘心時間は2割程度削減できた。</p> <p>2 副梢2本区では着粒密度は高くなるが、果粒が小さくなり熟期が遅れる傾向がある。</p> <p>3 省力化を前提にした場合、1回目の摘心で上位1本の副梢を残しても良い。</p> <p>4 1回目の摘心方法</p> <p>(1) 摘心時期 開花1週間前頃～開花直前</p> <p>(2) 摘心部位 第1花穂の上位4葉</p> <p>(3) 副梢の取り扱い 上位1本を残し、下位は全て摘除</p>		
期待される効果	作業の省力化が図られる。		
利用上の注意事項	副梢1本は副梢2本に比べ、1新梢当たりの総葉枚数が10枚程度少ないことから熟期がやや遅れるので、収穫期を誤らないようにする。		
担当	青森県りんご試験場 県南果樹研究センター 栽培育種部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成11～12年度 落葉果樹試験研究成績概要集（栽培） 平成11～12年度 青森県りんご試験場県南果樹研究センター成績概要集		

【根拠となった主要な試験成績】

表1 区別の新梢長及び摘心作業時間

(平成11年 青森りんご試県南果研セ)

区	新梢長 (cm)		10a 当たり摘心作業時間 (時間)			
	開花前	落葉時	1回目	2回目	3回目	合計
副梢 1本	122.2	184.4	13.7(130.5)	17.1(57.4)	17.7(89.4)	48.5(80.7)
副梢 2本	121.7	288.1	10.5	29.8	19.8	60.1

注) 2.5m×2.5m植え、一文字片側整枝短梢剪定樹 (表2も同様)  
作業時間の( )内の数字は2本区を100とした場合の割合

表2 区別の果実品質

(平成11年 青森りんご試県南果研セ)

区	果房重 (g)	果色	粒数 (粒)	着粒密度 (粒/cm)	1粒重 (g)	糖度 (%)	酸度 (%)	着色始め
副梢 1本	175.1	4.4	39.8	3.8	3.9	16.0	0.53	8月25日
副梢 2本	160.4	4.7	32.6	3.5	4.6	16.2	0.58	8月23日

注) 果色は1:黄緑、2:淡紅、3:淡鮮紅、4:鮮紅、5:濃鮮紅  
糖度はBrix、酸度は酒石酸換算 (表4も同様)

表3 区別の新梢長及び摘心作業時間

(平成12年 青森りんご試県南果研セ)

区		新梢長 (cm)		10a 当たり摘心時間 (時間)			
整枝	副梢	摘心前	落葉後	1回目	2回目	3回目	合計
片側	1本	88.9	237.9	8.9(93.7)	11.1(61.7)	7.1(67.0)	27.1(71.1)
片側	2本	87.8	340.0	9.5	18.0	10.6	38.1
両側	1本	81.6	214.1	11.0(126.4)	14.2(66.0)	9.4(62.3)	34.6(76.4)
両側	2本	94.0	398.3	8.7	21.5	15.1	45.3

注) 2.5m×5m植え、一文字整枝短梢剪定 (表4も同様)  
摘心作業は、誘引時間を含み一人で実施  
作業時間の( )内の数字は各整枝区の2本区を100とした場合の割合

表4 区別の果実品質

(平成12年 青森りんご試県南果研セ)

区		房重 (g)	着色	粒数	着粒密度 (粒/cm)	粒重 (g)	糖度 (%)	酸度 (%)
整枝	副梢							
片側	1本	197.2	4.2	48.7	5.11	4.4	16.6	0.69
片側	2本	210.3	4.8	50.3	4.54	4.6	17.5	0.66
両側	1本	213.5	3.9	48.5	5.55	4.7	15.8	0.68
両側	2本	150.0	4.4	35.1	4.01	4.6	16.3	0.74